

タイでの交流を通して広がった看護の視点

看護学部 2 学年次生

私が今回の短期留学に参加した理由は、これまで本学に来ていたタイの交換留学生との交流でした。一緒に過ごす中で、タイの学生の優しさや明るさに触れ、「また会いたい」「今度は自分がタイに行ってみよう」という思いが強くなりました。また、異なる文化の中で看護や医療がどのように行われているのかにも興味があり、現地の大学や病院を訪れて学びたいと思いました。一方で、海外に行くことは初めてだったため、言語や食文化など、出発前は不安な気持ちでいっぱいでした。



現地では、病院見学や大学のイベントへの参加、研究発表の聴講など、留学でしか経験できない学びを得ました。病院見学では、ベッド一つひとつにカーテンの仕切りがなく、使用されていないベッドにもカーテンが設置されていないことが日本との違いとして印象に残りました。また、エントランスホールは、タイでは日本のように扉で仕切られておらず、屋外で待っているような様子の人もありました。このような違いから、病院の環境にもその国の生活様式や文化、人々の考え方が表れていることを感じ、看護を考える上でも文化的背景を理解することが大切だと学びました。



研究発表では、オンラインを活用した看護研究が特に印象に残りました。SNS のアカウントを活用して看護を行うという発想はこれまで考えたことがなく、現代の生活にも合った方法で、身近なところから相談できる看護が広がる可能性があることに魅力を感じました。国や環境が違っていても、人々の健康や生活をより良くするために研究が行われていることを知り、この学びを今後の研究にも活用し、人々の健康につなげることができるよう頑張りたいと思うようになりました。

そして、今回の留学で最も心に残っているのは、タイの学生と過ごした時間です。一緒に食事をしたり、大学のイベントに参加したり、コミュニケーションをとる中で、文化や言語が違っていても、相手を知ろうとする気持ちがあればつながることができることを実感しました。留学を通して、異なる文化や価値観を持つ人に対しても、相手の背景を理解しようとする姿勢を大切にしたいと思いました。

短期留学への参加を考えている学生へのメッセージ

私は、海外に行くことへの不安や実習との両立などを考え、短期留学への参加をととても迷っていました。しかし、実際に参加してみると、タイの学生とたくさん交流することができ、大学や病院を訪れるなど留学だからこそできる経験をたくさんすることができました。英語が苦手でも、タイの学生が優しく接してくれるので大丈夫です。少しでも興味があるなら、迷っている人ほどぜひ一歩踏み出してみてください。きっと「参加してよかった」と思える、かけがえのない経験になると思います。

タイ留学で広がった看護と異文化への理解

看護学部 2 学年次生

私が短期留学に参加した理由は、海外の看護と日本の看護の違いやタイの医療について知るとともに、タイの文化・伝統・食生活・大学生活について幅広く学び、異文化理解を深めたいと考えたからです。また、言語や文化背景が異なる相手に対して、どのように自分の思いを伝え、相手を理解するか、看護におけるコミュニケーションの方法を学ぶことを目的としました。

現地では、マハサラクム大学の学生との交流や大学・病院の見学を通じて、タイの文化や医療について学びました。大学では、毎年先生への敬意と感謝を表すセレモニーが行われていることを知りました。バナナの葉に花や植物、現在では先生の好きなものなどを飾り付けして渡したり、タイダンスを披露したりするなど、先生を尊敬する文化が根付いていました。また、飾り付けに使用する植物の 1 つ 1 つにも意味があり、日本のおせち料理のように、それぞれに願いや思いが込められていることが印象に残りました。手を合わせる際にも、1 人ひとりの健康や幸せな人生を願う意味があることを知り、文化や習慣には、その国の人々の思いや価値観が表れていると感じました。

病院見学では、日本とは異なり、電子カルテを使用せず、手書きで記録・管理している様子を見学し、病院内の設備や環境整備にも日本との違いが見られました。実際に現地の医療現場を見ることで、日本では電子カルテなどの医療情報を扱う環境が整備されていることを改めて実感するとともに、国によって医療の設備や記録方法などが異なることを学びました。また、それぞれの国の医療環境には、その国の社会や医療制度などの背景が関係していることにも気づきました。

タイの学生と食事やレジャーを共にする中で交流を深め、学校生活やアルバイト、日々の生活について知ることができました。例えば、大学での授業やアルバイトの内容、休日の過ごし方などについて話をし、日本との違いを知ることができました。英語で会話を続けることで、徐々に英語を聞き取ることに慣れ、自分から伝えようとする姿勢の大切さを学びました。さらに、タイ語を教えてもらったり日本語を教えたりする中で、言葉が異なっても、相手に興味を持ち、理解しようとする気持ちがコミュニケーションにつながることを実感しました。今回の留学を通じて、異なる文化や価値観を尊重しながら相手を理解する姿勢は、将来看護師として多様な患者と関わる上でも重要であると学びました。

短期留学への参加を考えている学生へのメッセージ

短期留学では、実際に現地に行かなければ分からない文化や医療、学生生活を体験することができます。最初は英語での会話に不安がありましたが、現地の学生と一緒に過ごすことで、少しずつ聞き取れるようになり、自分から話しかけることにも自信ができました。言葉が通じない場面でも、伝えようとする気持ちがあれば交流することができます。新しい文化や価値観に触れることは、自分の視野を広げる貴重な経験になるので、迷っている人は参加してほしいです。



異文化に触れ広がる看護観と世界

看護学部 3 学年次生

私が短期留学に参加した理由は、日本とタイの看護観や保健医療制度の違いを学び、地域での保健制度や看護の捉え方を知ること、看護師・保健師としての視野を広げたいと考えたためです。1年生の頃から短期留学に興味があり、挑戦するなら今年が最後の機会だと思い参加を決意しました。3年生の参加者は私一人だったので、最初は不安が大きかったのですが、現地では学年に関係なく多くの方と交流することができ、とても良い経験になりました。

特に印象に残ったのは、病院見学とウェルカムパーティーです。病院では院内の各所に祈祷室が設けられており、宗教的背景を尊重した環境づくりが行われていました。日本ではあまり見られない文化的配慮に触れ、医療において患者や家族の価値観を理解する姿勢の重要性を強く実感しました。また、病棟の雰囲気やスタッフの働き方、地域との連携の仕組みなど、日本との違いを実際に見て学ぶことができ、机上では得られない学びが多くありました。

ウェルカムパーティーでは、初対面の私たちを温かく迎えてくださり、たくさんのお土産や優しい言葉をいただきました。ダンスで盛り上がり、一緒にゲームをしたりと、日本ではあまり体験できないような楽しい時間を過ごすことができました。私の拙い英語を理解しようとしてくれたり、難しい言葉を言い換えて伝えてくれたりと、タイの人々の穏やかで親しみやすい人柄に触れ、異文化交流の楽しさを強く感じました。毎日のようにお土産をいただき、日本からもっと持っていくべきだったと痛感したほどです。関わった方々がとても優しく、タイにはまた行きたいと強く思えるような短期留学になりました。

今回の短期留学を通して、異文化に触れることで自分の視野が広がり、挑戦する姿勢の大切さを改めて感じました。机上では得られない学びを多く得ることができ、国際的な視点を持ちながら今後の実習や将来の看護実践に活かしていきたいと考えています。

短期留学への参加を考えている学生へのメッセージ

留学と聞くと不安に感じる方も多いと思いますが、実際に参加してみると毎日が新しい発見の連続で、時間はあっという間に過ぎていきます。海外での学びは視野を広げる大きなきっかけとなり、学生だからこそ経験できることがたくさんあります。社会人になってからも海外へ行くことはできますが、病院見学や現地学生との交流など、今回のような貴重な体験はなかなかできません。興味がある方は、ぜひ一歩踏み出して挑戦してみることを強くおすすめします。



タイ短期留学を通して広がった世界

看護学部 2 学年次生

私が今回の短期留学を志望した理由は、交換留学でタイの学生が日本を訪れた際にボランティアとして交流したことがきっかけです。短い期間の交流でしたが、帰国する際に涙を流して「また会おうね」と言ってくれたことが心に残っており、交流した学生にもう一度会いたいと思ったからです。また、新しいことに挑戦することで、自分の視野を広げたいと考えたことも理由の一つです。

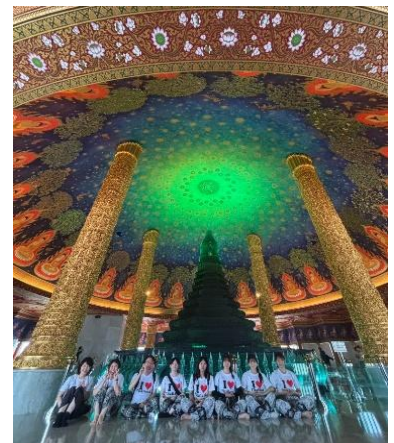
現地では、学生との再会に加え、初対面の学生とも食事やダンスなどを通して交流を深めることができました。言語や文化が違っても、一緒に笑ったり楽しんだりする中で心が通じ合うことに、留学の大きな

魅力を感じました。特に印象に残ったのは、学生たちの相手を思いやる姿勢です。タイの学生は、飲み物をこぼしてしまった際に片付けをしてくれたり、キャリーケースを持ってくれたり、体調や空腹を気にかけてくれたりと、相手が困っていることに気づいて自然に行動しました。相手の気持ちを考え、自然に行動に移す姿を見て、私も思いやりを行動に移せる人になりたいと思うようになりました。

病院見学や大学での講義では、タイと日本の看護の違いについても知ることができました。特に、タイの看護学生が縫合の練習をしていることを知り、日本とは看護師が担う医療行為の範囲が異なることに驚きました。また、講義だけでなくシミュレーションや OSCE などを通して、より実践的な看護技術を身につけていました。臨地実習では、病院だけでなく地域での実習も行い、健康増進や疾病予防、患者さんの生活や文化に合わせた看護を大切にするなど今回の留学を通して、英語への抵抗感が減っただけでなく、日本とは異なる看護教育や医療現場を知ることができました。帰国後も留学中に仲良くなったタイの学生と連絡を取り合っており、国が違っても大切に思える友達ができたことを嬉しく思います。この経験を大切に、これからも失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦していきたいです。

短期留学への参加を考えている学生へのメッセージ

旅行では味わうことのできない経験を、留学ではたくさん得ることができます。特に、現地の学生と深く関わり、帰国後も続くようなつながりを作れることは、留学ならではの魅力だと思います。また、現地の看護教育や医療現場に触れることで、日本との看護の違いを知り、自分の看護への視野を広げることもできました。英語や海外生活への不安もあると思いますが、英語が苦手な私でも「行ってよかった」と心から思えました。少しでも迷っているなら、不安を理由に諦めず、ぜひ一歩踏み出して挑戦してみてください！



文化を超えて、人とつながり広がった視野

看護学部 2 学年次生

私がこの短期留学に参加した理由は、もともと外国に興味があり、異なる文化や価値観をもつ人々と実際に関わることで、自分自身の視野を広げたいと思ったからです。また、日本とは異なる看護や医療、看護教育について学びたいと思い参加しました。

学校での体験で印象に残ったのは、タイの伝統的な行事であるワイクルーセレモニーです。学生が先生に感謝や尊敬の気持ちを表す儀式であり、手作りの花を用意し感謝の言葉とともに先生へ渡していました。涙を流す先生の姿も見られ、学生と先生の間に深い信頼関係や、先生への感謝や敬意を大切にするタイの文化を強く感じました。

現地の大学の講義では、看護教育や看護師の資格制度についても学びました。タイの看護師は資格取得後も 5 年ごとに資格を更新する制度があることに驚きました。継続して学びながら専門性を高めていく仕組みを知り、看護師は生涯にわたって学び続ける専門職であることを改めて実感しました。また、病院見学やタイマッサージの体験を通して、医療は知識や技術だけでなく、その国の文化や人々の生活とも深く関わっていることを学びました。

そして、最も印象に残ったのはタイの看護学生との交流です。留学前はうまくコミュニケーションを取れるか不安でしたが、学生たちは驚くほどフレンドリーで、自分から話しかける前に次々と声をかけてくれました。そのおかげで緊張もすぐにほぐれ、楽しい時間を過ごすことができました。英語だけではうまく伝わらない場面もありましたが、翻訳やジェスチャーを使いながら、お互いに積極的に伝えようとすることで交流を深めることができました。またウェルカムパーティーでは大勢の学生が私たちを温かく迎えてくれました。帰国後も連絡を取り合っていて、国や言葉の違いを越えたつながりを築けたことは、大切な経験となりました。

短期留学への参加を考えている学生へのメッセージ

この短期留学では、タイの看護や医療について知るだけでなく、現地の学生と交流したり、実際にタイの文化に触れたりすることで、旅行では得られない多くの経験を行うことができました。旅行とは違い、現地の学生と一緒に過ごすからこそ、新しい発見も多く、自分の視野を広げるきっかけになったと思います。海外や英語に不安がある人もいますが、英語が完璧に話せなくても乗り越えることができます！少しでも興味があれば、ぜひ勇気を出して一歩踏み出してみてください。きっと忘れられない経験になると思います！

